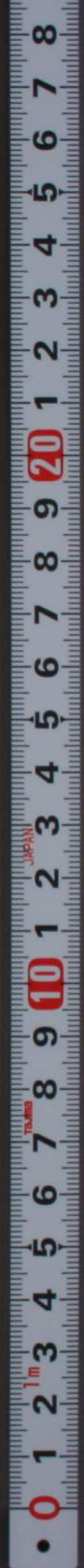


ル 2
3065
1



門 儿 2
號 3065
卷 1

嘉 永 三 年 仲 夏 新 鑄

稟 准 刊 行

泰西字正蒙

全三冊

筑前邸

皞如樓

藏版

題三寸正蒙

鄧衍禔九所。其。原。不
可。尋。冰。海。生。山。河。交
所。阿。誰。更。作。指。南。鍼。
有。人。古。貌。髻。髻。髻。三。

泰西三寸正蒙

泉口婁歲

昭和十六年三月五日寄
石澤介吉氏贈

十已見雪上策。曾誦
蟹行書萬言。五行地
緯久已諳。為修圖誌
鎮揆函。鉛槧丹黃手
自刪。圖中所載何翻。

龍堆星海指掌間。嗚
呼我聞龍堆之西萬
餘里。列土瓜分互頡頏。
中有人妖類明空。欲
將隻手掣名王。忽傳

馬上羞紅裙。戰鼓填。
 幾處聞。可憐多少紫
 髯奴。解甲爭投娘子
 軍。咄哉人妖死何時。
 豕對斯圖。三歎咨。龍

堆之西萬餘里。無人
 驅除一娥眉。
 嘉永庚戌清和書於
 浦賀之凝香館
 蔣澤鉅侶長祚



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '泰西三才正蒙' and '饒如村甫'.

三才正蒙叙

古人稱天地人為三才。夫究三才之說者。西洋之學為至。以其迴旋於萬里之外。而推測之也。雖然。其文迴環。其語轉倒。故譯之。要。

在翻彼語而為我邦言而已。若其文法。則於彼固為井然。而在我則侏離不可解者存焉。故拘原書而質直成文。則又不免錯雜。殆難理會。若彫琢成文。則不

免失本色。所謂差之毫釐。謬以千里者。譯其難矣哉。吾同僚青崖永井氏。通狄鞮之學。嚮者著輿地全圖。頃復著三寸正蒙。以余粗解西書。徵序。余受而卒業。

因嘆曰。後生少年。賴是書以
究三寸實際。則其為弘益不
亦多乎。青崖於西書。能曲
暢本旨。語簡而事詳。實世
之所希覲也。或曰。方今於斯
三者孰急。曰。必也地理乎。有

邊防之責者。審察夷情。以
備不虞之用。庶幾無臨事
失度之患矣。青崖著述之
微意。其亦在於斯乎。

嘉永三年庚戌春三月於
筑前荒津允臧廬

蘭圃安部龍士魚識



魯堂永井則諄書



泰西三才正蒙

題例

一 西洋諸州、訓導童蒙、必先天地、天有日月星辰、漢尾游衛之文、教以其小、大運轉距離、隱見之義、地有嶽漠河海、黃赤暖寒之理、示以其動植氣性形質、向背之本、以明因方從地、生養稟迭之異焉、蓋以為將來格致之資也、此書首舉二儀梗概、終以諸州物情、將以備初學梯階也、若夫各土區別、各俗佳慝、小大有分彼此、殊道則非區々小冊之所能詳悉也、余別有

輿地志大全譯，空就覽焉。

一編中所說里程，依西洋地理家定法，乃與獨逸里程同，其一里當我一里三十一呎四十八間。

一此書所記度尺，皆依列應蘭士定法，其一尺當我量地尺一尺零三分四釐。

一編中所舉時刻，平等一晝夜，為二十四時，我十時即一時，六十分，一分六十秒。

一稱一度者，謂圓球周圍三百六十度之一也，一度當我二十八里二分半。

一路程稱幾時行者，一時行程當我一里十四呎五

十問

嘉永二年己酉仲夏

永井則識

標目

卷一

天體總說	恒星	<small>銀河</small>	游星	衛星	尾星
太陽	水星	金星	地球	火星	
四游星	木星	土星	烏刺紐斯		
太陰	朔望弦并日月兩蝕			潮汐	

地球運轉 南北極并赤道 經緯度
 地球五帶 晝夜長短刻限表 全世界火山表
 雪際表 全世界高山表 諸曜運行圖
 木星圖 土星圖 朔望弦之圖
 日月兩蝕之圖 地球運行之圖

卷二

大地 氣類 水源 河川 湖 海
 火山 地震 山脈 冰山 沙漠
 風 島嶼

卷三

五大洲人物總括

歐羅巴人物志

是斑呀 イヌパニヤ
 佛蘭西 フランクス
 獨逸 ドイッ
 英吉利 エケレス 思哥齊亞 スコシヤ
 意大利亞 イタリヤ
 波羅泥亞 ポロニア
 蠟皮亞 ラピダ
 諾而勿惹亞 ノルウェジヤ
 葡_{ホルト}萄_{ガル}牙
 和蘭
 第那瑪爾加 デナムアルカ
 意而蘭土 イレルランド
 都兒格 トルコ
 俄羅斯 オロス
 蘓亦齊亞 スウエシヤ
 依蘭土 イスラント

亞細亞人物志

俄羅斯域内
止白里

縛楞蒲爾觚西北

杜波兒斯基

沙謨厄鄧

意爾哥都加

厄尼些斯奇

鄂哥都加

葛謨沙斯加

東倨生

支那

朝鮮

日本

孟加刺

孟買

暹羅

韃靼

天竺

東埔塞

麻刺拔爾

亞刺比亞

亞弗利加人物志

厄入多

奴皮亞

亞毘沁域

巴爾巴里亞

都尼素

亞爾日爾

泥义利西亞

閩年

工鄂

喝叭布刺

弗甸突典

贊西拔爾

北米里幹人物志

默時科

非耳及泥亞

花地

角里伏爾泥亞

農地

加拿太 應帝亞鑽

卧兒狼德

南米里幹人物志

閣龍皮亞

加爾答業那 麻辣回博

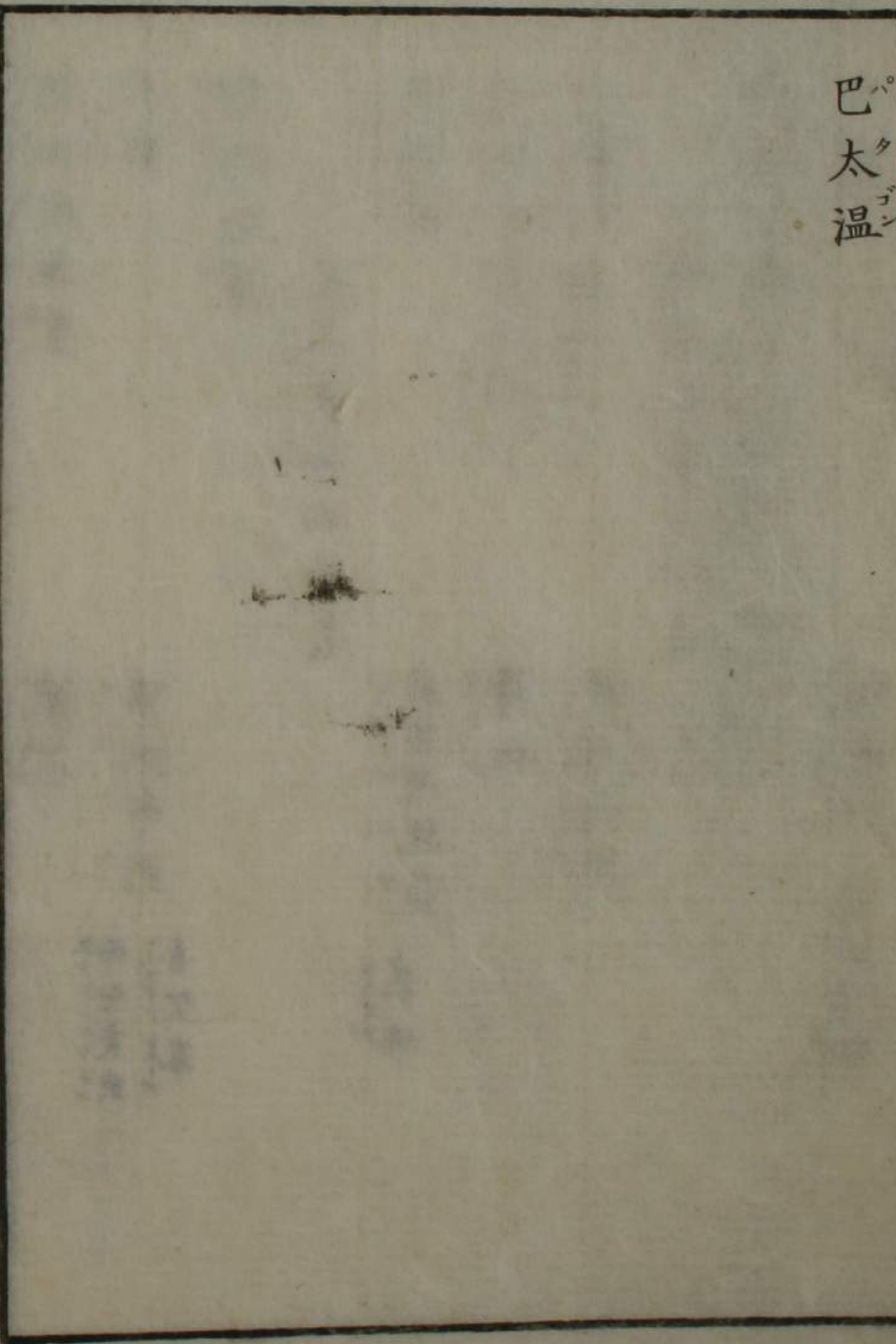
白露

伯西兒

亞瑪作擲

泰西三才正蒙
巴太温
白如木

巴太温



泰西三才正蒙卷一

筑前 永井則士訓 著

天體總說

夜間、澄天ヲ仰キ觀レバ、無量ノ光點、大虚中ニ滿布ス
ルモノ、是ヲ星ト云、此星ハ皆世界ナリ、其最モ小形ニ
シテ糠粃ノ如キモ、一トシテ世界ニアラザルハナシ、
但其遠近距離ニ由テ、大小各異ナルノミ、太陽光線ノ
及ブ分界ヲ、游星天ト云ヒ、及バガル分界ヲ、恒星天ト

泰西三才正蒙
泉口妻成

云、恒游二星ノ外、又一種ノ小星アリ、此小星、各游星ヲ主トシテ之ヲ纏ヒ、俱ニ太陽ヲ旋轉ス、之ヲ衛星ト云、太陽ノ地球ヲ運轉スルガ如キモ、亦此衛星ナリ、第一圖ニ就テ考フベシ、

恒星

恒星ハ、遙ニ游星天ノ外ニ在テ、常ニ位置ヲ變セズ、其質、固有ノ光輝ヲ放テ、數億萬里ノ外ヲ照シ、或ハ周圍ニ諸ノ游星ヲ繞ヒ、其游星ニ、又衛星アツテ、其衛星、各其主星ヲ旋繞スルヲ、太陽ト異ナルヲナシ、然ルニ之ヲ仰ケバ、但一點ノ小光ノミナルハ、我が地球ノ距離

至遠ナルガ故ナリ、我が地球ヨリ、試ニ最近ノ恒星ニ向テ、一彈丸ヲ放シニ、其丸ヲシテ、直射疾速ナルヲ、尋常砲銃ノ如クナラシメバ、五萬年ニシテ、始テ是ニ達スルヲ得ベシ、地ヲ距ルヲ、斯ノ如ク至遠ナレバ、瞭然トシテ其光輝ヲ辨ズルヲ得ル片ハ、其體、太陽ヨリモ大ナルヲ知ルベシ、歇爾斯結兒ルノ説ニ、齊利烏斯星ノ光彩ヲ以テ、太陽光彩ニ比較シ、之ヲ推歩スレバ、則齊利烏斯星ノ地ヲ距ルヲ、太陽地ヲ距ルノ二萬八千倍トス、今人眼ヲ以テ望ム所ノ恒星、其數五千個ニ下ラズ、望遠鏡ヲ以テ之ヲ窺ヘバ、數百萬個ニ及ブ、

中ニ一種、小光點聚合シテ、白氣狀ヲ現シ、辨認スベカ
ラザルモノアリ、之ヲ靄星、一名靄雲ト云、又大虛中ニ
一條ノ白帶ヲ連布スルガ如キモノアリ、之ヲ銀河ト
名ク、是亦小星攢簇シテナル所ナリ、斯屈ク邏ロ多兒トル名大
望遠鏡ヲ以テ之ヲ窺フニ、其經五度、其緯二度ノ處ニ
當テ、四萬八千九百星ヲ見ルト云、銀河ノ天體ニ連ル
モノ、經ヲ三百六十度トシ、緯ヲ八度トス、内ニ四百萬
餘點ノ小星アリ、靄星ノ如キハ、其數無量ニシテ、唯白
色ノ光輝ヲ現スノミ、識者之ヲ光素ニ充ツ、光素ハ、精
質ニシテ、其性温熱ナク、只照耀スルモノ、原質ヲ云、其
移動シテ光射ヲ放ツ、極テ迅速ニシテ、ヨク温氣ト

交合シ場、歇爾ル斯結ケ兒ル名曰、靄星ノ内地ヲ距ル、最モ
近キモノハ、齊利烏斯星ノ地ヲ距ルニ六百倍、其最モ
遠キハ八千倍スト云、

游星

游星ノ物タル、暗體ニシテ、自己ノ光輝ナシ、惟太陽ノ
光射ヲ假テ以テ明ヲナス、故ニ太陽ニ衝對スル表面
ハ、常ニ照射シ、之ニ背ケバ微暗ナリ、此游星、總テ十一
箇アリ、各太陽ヲ中心トシテ、其周邊ヲ旋轉ス、然レ、
地ヨリ之ヲ觀レバ、或ハ東ヨリ西シ、或ハ西ヨリ東シ、
或ハ進退伏留ス、是皆我が地球ノ動ニ因テ生スル所

ニシテ、實行ニアラザルナリ、是以テ游星ト云ヒ、或ハ惑星ト云、今太陽ノ距度ニ從テ、其順次ヲ別ツ、一曰水星、二曰金星、三曰地球、四曰火星、五曰歇斯答、六曰俞諾、七曰說列斯、八曰巴爾刺斯、九曰木星、十曰土星、十一曰烏刺紐斯是ナリ、此十一游星ノ内、水金二星ハ、其行圈地球ノ行圈内ニアリ、因テ又内游星ノ名アリ、此内游星ニ對シテ、他ノ九游星ヲ、外游星ト云、

衛星

衛星ハ、游星ニ附屬スル小星ナリ、各其主トスル所ノ游星ニ從テ、共ニ太陽ヲ旋回ス、是亦主星ト同ク、自己

ノ光輝ナシ、太陽ノ照射ヲ假テ以テ光ヲ放ツ、其木星ニ屬スル者四個、大サ各地球ニ齊シ、土星ニ屬スル者七個、烏刺紐斯ニ屬スル者八個、凡十九星、烏刺紐斯ノ衛星八個ノ内、二星ハ、主星ノ距離ト、主星ヲ一周スル時日トヲ詳ニセズ、水火二星ハ、未タ其衛星アルヲ見ズ、金星ニハ中古ノ天學家、衛星アルヲ實驗セシト云説アレバ、今ハ曾テ見ルナシ、

尾星

恒游二星ノ外ニ、又尾星ト云者アリ、漢名之ヲ慧星ト云、此星、恒星天ト、游星天ノ中間、宏大無量ノ空虚中ニ

涉テ、一種ノ運行ヲナス惑星ナリ、行圈長圓形ニシテ、亦太陽ヲ旋回ス、故ニ時アツテハ、太陽ニ近キヲ、傍ノ水星ヨリモ近ク、時アツテハ、烏刺紐^{ウラニウス}ヨリモ遠クシテ、之ヲ距ル^トモ亦速カナリ、是以テ其旋轉ヲ認ル^ト頗ル難ク、運行不規ニシテ、其現ル^ト、^ト甚タ稀ナリ、第一圖ヲ見テ知ルベシ、此星モ亦自己ノ光輝ナク、太陽ノ光射ヲ假テ、以テ其尾狀ヲ發ス、モシ游星天ノ圈外ニ出ル片ハ、其光明ヲ失ヒテ、人はヲ見ル^トヲ得ズ、但望遠鏡ヲ以テ、其光芒ヲ窺フニ、太陽ニ衝對スル表面ハ、體中ヨリ蒸氣雲霧ノ狀ヲ發シテ、其圓形ヲ失ヘル

ナリ、此星、品類頗ル多シ、中ニ一二、鬚星或ハ劍星ノ稱アルアリ、皆狀態ニ從テ名ルナリ、

太陽

太陽モ亦星ナリ、天體^{太陽天}ノ中位ニ在テ、常ニ廿五日十時ニメ、自己ノ樞軸ヲ旋轉スルノ外、曾テ他ノ運動ヲ見ズ、故ニ之ヲ中點星ト云、此星、一大光毬ニシテ、其映射、地上ノ濛氣^{下編、氣類ノ條ニ參考スベシ}ニ感觸シテ、温氣ヲ賦與ス、地ノ行圈ヲ距ル^ト、大約二千零零八萬五千里、其距離ヲ證センニハ、試ニ太陽ニ向テ、地ヨリ一彈丸ヲ放キ、其飛走障礙ナキヲ以テ之ヲ算計スルニ、二十

五年間ニシテ、始テ太陽ニ達スルヲ得ベシ、其距離
 斯ノ如ク無量ナレバ、其光線地ヲ射ル、僅ニ十六分
 時ナリ、其實體ハ、何物タルカ、知ルベカラザレバ、我ガ
 地球ヨリ大ナル、百四十三萬五千零二十五倍トス、
 古人太陽ヲバ、或ハ火洋ト云ヒ、或ハ燄塊ナリト云、今
 世ハ、此説ヲ取ラズシテ云、太陽モ亦一箇ノ暗球ニシ
 テ、但濛氣ノ輪ヲ纏ヘルナリト、一説ニハ、是即チ北光
 ト同ク、則、按ニ、北光ハ、亞細亞、歐羅巴、偏北地方ニ於
 ト同ク、テハ、夜間北方ニ光輝ヲ放ツテ、恰モ白晝ノ如
 キトアリ、漢ニ之ヲ北閃ト云、雷越列吉的爾質ノ聚テ
 電アル地ニハ、見ザルモ、越列吉的爾質ハ、無形ノ元氣ニ
 成レルモノナリトス、萬體此質ヲ具セザルモノナク、

素ト其引カト、張カト平均シテ、一種ノ氣ヲ成ス、故
 ニ其平均ヲ失ヘバ、多者寡ニ與ヘ、寡者多ニ取ントシ
 テ、發作ヲナス、是以テ一タビ其平均一説ニハ、兩間ニ充
 均ヲ得レバ、直チニ止ルノ質トス、一説ニハ、兩間ニ充
 溢スル所ノ光素、前ニ太陽ノ引カニ吸收セラレ、
 諸游星ノ太陽ニ於ルガ如シト云、引カハ、物質五ニ相
 トスルノ性ヲ云、此性、諸物皆アラザルモノナク、地球
 諸曜ニモ亦固有セリ、但大體ハ、小體ヲ吸收セントス、
 故ニ諸曜ノ運行ヲ然ルニ、光素ヲ有スルモノ、特ニ太
 ナスモ、此理ニ係ル、然ルニ、光素ヲ有スルモノ、特ニ太
 陽ニ限ルベカラズ、諸游星、地球等ニモ、亦光素ヲ固有
 セリト云、
 水星ハ、游星中ノ體最モ小ナルモノトス、然レバ、説列

自轉スルヲ、二十四時、我十時但一歳ヲ、三百六十五日ニ
 平等シ、其餘時ハ、四年ヲ積テ、一日ノ數ヲナス、是以テ、
 四年毎ニ、一日ヲ加添シテ、三百六十六日トシ、之ヲ閏
 年ト云、天學家、一歳中、太陽ノ地球躔度ヲ定ムルガ爲
 ニ、黄道ヲ十二個ニ分割シテ、十二宮ト稱ス、是ニ由テ、
 太陽、三月二十一日、和蘭ノ月日ヲ云、白羊宮、分四月二
 十日、金牛宮、穀五月二十一日、双女宮、小六月二十二日、
 巨蟹宮、至七月二十三日、獅子宮、大八月二十四日、室女
 宮、處九月二十三日、天秤宮、秋十月二十四日、天蝎宮、降
 十一月二十三日、人馬宮、小十二月二十二日、磨羯宮、至

正月二十日、寶瓶宮、大二月十九日、双魚宮、水トス、然レ
 凡、其實ハ太陽ノ躔度ニアラズ、全ク地球運轉ノ、然ラ
 シムル所ナルヲ知ルベシ、

火星

火星ハ、行圈地球ノ後ヘニ在テ、其樞軸ヲ自轉スルヲ、
 二十四時、四十分トス、其直径、千百四十六里、太陽ヲ距
 ルヲ、三千二百万里、其兩極、地ニ比スレバ、頗ル平片四
 角ナルヲ以テ、形チ梨果ノ如シト云、此星、運行時期ニ
 因テ、光輝濃薄アリ、一年三百二十一日、十六時ニシテ、
 太陽ヲ一周ス、

泰西三才正蒙 卷一
白如木

四游星

火木二星ノ中間ニ、四個ノ小游星アリ、各近傍ニ位置シテ運行ス、蓋此星、原ト大星ナルガ、分裂シテ、四游星トナレルモノナランカ、何則其體頗ル小ニシテ、互ニ行圈ヲ異ニスレバ、太陽ヲ旋轉スルニ、大約引カト距離ヲ齊フスレバ、四星合セテ、一游星ノ状態ニ適フ、是ニ於テ星學家、頗ル黽勉スル所トス、今測定シテ、順次ヲ區別ス、一曰歇斯答、二曰俞諾、三曰說列斯、四曰巴爾刺斯、是ナリ、第一圖ヲ見ルベシ、

歇斯答

歇斯答ハ、千八百七年、文化獨逸國ノ忽爾別兒點斯ト云者、三月二十九日ニ、發明スルモノニシテ、其直徑六十里、太陽ヲ距ル、大約四千九百萬里、三年二百三十九日ニシテ、太陽ヲ一周ス、

俞諾

俞諾ハ、千八百四年、文化九月朔日、華兒仁堡ト云者、利勒印答利地ニ於テ、發明スルモノニシテ、其直徑、三百零九里、太陽ヲ距ル、五千五百萬里、四年百二十一日ニシテ、太陽ヲ一周ス、

說列斯

泰西三才正蒙 卷一 九 泉口婁歲

説列斯ハ、齊西利亞島ノ天學家、ト云者、千八百一年、享和正月元旦、巴列爾ル没モ地ノ觀象臺ニ於テ、始テ發明スルモノニシテ、其直徑、三百五十二里、太陽ヲ距ル、五千八百萬里、四年二百二十日ニシテ、太陽ヲ一周ス、

巴爾刺斯

巴爾刺斯ハ、獨逸國ノ忽爾別兒ル斯スト云者、千八百二年、享和三月二十八日、蒲列グ面シ地ニ於テ、檢出セルモノニシテ、其直徑、四百五十五里、太陽ヲ距ル、五千八百萬里、四年二百二十日ニシテ、太陽ヲ一周ス、

木星

木星ハ、太陽ヲ距ル、極テ遠ク、大約一億八百萬餘里トス、其體、最モ大ニシテ、行圈モ亦從テ延大ナリ、故ニ光輝大塵中ニ顯著ナリ、往昔厄ギ勒リ齊シ亞ヤ國ニ於テハ、之ヲ神トシ祠レリ、十一年、三百十二日、二十時ニシテ、太陽ヲ一周ス、直徑一萬九千五百八十里、其樞軸ヲ自轉スルノ速カナルヲ、殆ント意表ニ出ツ、乃チ自轉間、二十四時、四分不及トス、其兩極ハ平扁ニシテ、周圍ニ、三條ノ暗帶紋ヲ纏フ、第二圖ニ見ルベシ、四衛星アリ、各主星ヲ繞フテ一周ス、其時日、距離ヲ示スモノ、九ノ如

第一星

一周 一日七百六十九分
距離 五千六百九十七里

但此日數一日ヲ千分ト定メ千分ニ滿タザルヲ餘時トス以下之二微ス

第二星

一周 三日五百五十一分
距離 九千零六十六里

第三星

一周 七日百五十五分
距離 一萬四千四百六十二里

第四星

一周 十六日六百八十九分
距離 二萬五千四百三十六里

土星

土星ハ、天體中、游星天ヲ云フ最モ遠隔ノ游星ナリ、太陽ヲ距ル一、一億九千八百萬里トス、故ニ彼ノ光線ヲ受ルモ、地ヨリ微弱ナル一、九十倍ニシテ、二十九年、百五十四日、十九時ヲ以テ、太陽ヲ一周ス、其直径、一萬七千三百七十里トス、此星、周圍ニ一種ノ輪ヲ纏ヒ、是ヲ以テ太陽光線ヲ受ケ、尋テ主星ニ反照ス、千六百六十年、萬治三肺鍵斯ス人ノ發明ニ係ル、方今星學家ノ説ニ、其光輝最モ顯著ナルハ、兩輪アツテ、互ニ均ク運動スルノナス所ト云、第三圖ニ見ルベシ、七衛星アリ、各主星ヲ繞フ

テ一周ス、其時日、距離ヲ示スモノ、尤ノ如シ、

白文才

第一星

一周 九百四十三分
距離 三千零八十里

第二星

一周 一日三百七十分
距離 三千九百五十二里

第三星

一周 一日八百八十八分
距離 四千八百九十三里

第四星

一周 二日七百三十九分
距離 六千二百六十八里

第五星

一周 四日五百十七分
距離 八千七百五十四里

第六星

一周 十五日九百四十五分
距離 二萬零二百九十五里

第七星

一周 七十九日三百三十分
距離 五萬九千五百四十四里

烏刺紐斯

烏刺紐斯モ亦十一游星ノ一ナリ、游星天ノ際界ニ位
置シテ、太陽ヲ旋回ス、太陽ヲ距ル、四億里、其直径、七
千二百四十一里トス、千七百八十一年、天明ノ發明ニ

係ル、八十三年、五十二日、四時ニシテ、太陽ヲ一周ス、是
 モ亦當サニ幾多ノ衛星アルベキニ、地球ノ距離、至遠
 ナルヲ以テ、望遠鏡ニ悉ク認ムルヲ能ハズ、但六衛星
 ヲ檢出スルノミ、近頃歇ヘル爾ス結ケル兒ル名ハ、八衛星ヲ發明
 セリ、去レテ、其運行時日ヲ詳ニスルハ、六衛星ノミト
 ス、六衛星、各主星ヲ繞テ一周ス、其時日、距離ヲ示スモ
 ノ、尤ノ如シ、

第一星

一周 五日八百九十三分
 距離 一萬三千百二十里

第二星

一周 八日七百零七分
 距離 一萬七千零二十二里

第三星

一周 十日零九百六十一分
 距離 一萬九千八百四十五里

第四星

一周 十三日四百五十六分
 距離 二萬二千七百五十二里

第五星

一周 三十八日零七十五分
 距離 四萬五千五百零七里

第六星

一周 百零七日六百九十四分
 距離 九萬千零零八里

太陰

太陰モ亦地球ノ衛星ナリ、他ノ十九衛星ニ、太陰ヲ加ヘテ、衛星都テ二十個ト云、太陰直径、四百六十八里半、周圍千四百七十里トス、光輝最モ愛スベシ、地ヲ距ル一、僅ニ五萬千三百五十三里、地ヨリ小ナル一、八十分ノ一ナレバ、之ヲ望ムニ、其體頗ル大ナルハ、畢竟地ノ距離、至テ近キヲ以テナリ、故ニ太陰半面ニ在ル住物ハ、我ガ地球ヲ望ム一、彼ニ比スレバ、極テ大ナルベシ、然レバ、他ノ半面ニ在テハ、夜間地ノ美光ヲ見ザルベシ、

潮汐

凡ソ潮汐ノ退滿ハ、必太陰ノ引力ニ係ル、之ヲ辨スル一、航海師、一日モ闕クベカラザル一大要務トス、二十四時、我十二十一分ニシテ、潮汐二次、六時毎ニ升降シテ止ム一ナシ、然ルニ、太陰地球ニ躔ル度ニ由テ、各地ノ潮候異同アリ、特ニ赤道直下ノ邦土ニ於テハ、最モ著シトス、朔望ノ如キハ、月行地ニ近キガ故ニ、潮漲頗ル大ナリ、中ニ就テ、朔ハ太陰、太陽ト相照對スレバ、太陰ト太陽ノ兩引カヲ與ニシテ、海水ヲ引ク、故ニ潮漲モ亦極テ大ナリ、上下兩強ノ如キハ、月行地ニ遠シ、是

以テ潮漲モ、自ラ小ナルヲ知ルベシ、

朔望弦并日月兩蝕

太陰ハ、常ニ二十七日半ニシテ、地球ヲ一周ス、即チ第
 四圖ノ如ク、甲ヲ太陽トシ、乙ヲ地球トシ、丙丁戊己ハ、
 太陰地球ヲ中心トシテ、運旋スル行圈、漢名白道トス、然ル
 ニ、太陰ハ素ヨリ地球ト均ク、自己ノ光輝ナク、唯太陽
 ノ射照ヲ假テ明ヲナス、諸游星ト異ナルヲナシ、故
 ニ太陽ノ向背ニ從テ、明魄ノ別チアリ、是ニ由テ、太陰
 丙ニ在ル片ハ、則チ朔ナリ、地上ニ向フ面ハ、全ク暗黒
 ナリ、之ヲ魄ト云、丁ニ在ル片ハ、上弦ナリ、即チ光輝半

面ニアリ、戊ニ在ル片ハ、則チ望ナリ、地上ニ面スル所
 洽ク亮カナリ、之ヲ明ト云、己ニ在ル片ハ、則チ下弦ナ
 リ、斯ノ如ク太陰、二十七日半ニシテ、地球ノ周圍ヲ一
 周シ、丙ヨリ丙ニ復ス、其時間、乙ノ地球ハ、己ノ太陰ノ
 方ニ進ム、故ニ己ノ太陰ノ心點、甲ノ太陽ト、乙ノ地球
 ノ中間ニ至ラズ、既ニ進ム、大約二日ニシテ、漸ク甲
 乙ノ中間ニ及ブ、之ヲ朔トス、即チ朔ヨリ朔ニ至ル日
 數、二十九日半ニシテ、日月相照對ス、之ヲ併月ト云、斯
 ノ如ク、朔ハ太陰地球ト太陽ノ間ニ介在スレバ、日光
 ヲ蔽フ、ナク、望ハ地球、日月ノ間ニ介在スレバ、日光

ヲ蔽遮セザルハ、素ヨリ年圈、太陽行道ト、月道、太陰行道ハ、互ニ
斜絡スレバ、彼高ク是界キヲ以テ、日月光明ヲ失フ
ナシ、去レバ、各行圈ノ交ル所、漢名、龍頭、龍尾、アツテ、是
ニ近ツク片ハ、日月地球、經緯度ヲ齊フシテ蝕ヲナス
一、第五圖ノ如ク、乙ノ太陰ハ、甲ノ太陽ト、丙ノ地球ノ
中間ニ介在シテ、日光ノ地ニ及ブヲ蔽遮ス、之ヲ日食
ト名ク、乃チ太陽面ニ顯ハル暗影ハ、正、二月體ノナス
所トス、望ハ、丙ノ地球、甲ノ太陽ト、丁ノ太陰ノ中間ニ
介在シテ、日光ノ太陰ニ達スルヲ蔽遮ス、故二月面ニ
顯ハス暗影ハ、正、二地球ノナス所ニシテ、之ヲ月食ト

名ク、乃チ「丙」ト「丁」ノ如シ、朔ハ日食ヲナシ、望ハ月食ヲ
爲ス、時トシテハ一歲中、兩三回ニ及ブトアリ、

地球運轉

大虛自轉ノ理ニ基クニ、萬體引カヲ具セザルハナシ、
中ニ就テ、大體粗質ノ物ヨリハ、却テ小體堅密質ノ物
ニ多シ、大地ノ引カハ、普ク地上ノ萬物ヲ吸收ス、故ニ
萬物地心ニ向テ落チザルハナシ、其落ルハ、則チ物ノ
重力ト、大地ノ引カニシテ、諸游星ノ旋轉モ、皆此ニ基
ク、コレ萬體ノ互ニ運行スル所以ナリ、前ニ述ル如ク、
地球ハ、二十四時ニシテ、其樞軸ヲ自轉ス、故ニ太陽及

諸游星ノ出没ヲ生シ、或ハ晝夜ヲ生ス、之ヲ地ノ日
 轉ト云、斯ノ如ク日毎ニ旋轉止ムヲナク、竟ニ三百六
 十五日ヲ積テ、太陽ヲ一周ス、之ヲ一歲トス、是以テ萬
 國悉ク太陽ノ向背ニ因テ、各其映射ヲ受ルニ、斜直ノ
 差アリテ、自ラ寒暑ヲ生シ、或ハ四時ヲナス、第六圖ノ
 甲ヲ太陽トシ、周圍ノ橢圓線ヲ地球ノ行圈トス、但地
 ノ南北極ハ、天ノ兩極ニ應シテ、常ニ方位ヲ變ズル
 ナシ、今地球第一號ニアル片ハ、則チ子丑ハ樞軸、寅卯
 ハ夏至規、一名北回辰巳ハ冬至規、一名南回午未ハ赤
 道線ニシテ、乙ヲ亞謨斯答爾和蘭都府トス、然ルニ、太陽

復至規ノ上ヲ躔スル片ハ、其光射直ニ亞謨斯答爾和蘭
上ニ及ビ、以テ暑熱ヲナス、甲ト乙トノ如シ、半歲ヲ
 經テ、地球第二號ニ遷回スレバ、太陽冬至規ノ上ニ躔
 シテ、其光射斜ニ亞謨斯答爾和蘭都府上ニ達ス、故ニ隆寒
 ヲナス、甲ト丙トノ如シ、太陽申酉ニ躔スルヲ、春秋
 二分トス、各國皆此理ヲ以テ推知スベシ、

南北極并赤道

肺鍵斯名曰、地球ハ圓形ナラズシテ、其兩極平扁ナル
 一、回青桃果ノ如シト、爾來佛蘭西ノ碩學、赤道直下、及
 ビ北極下迄傍ニ於テ、測量セシヨリ、此說益的實ナル

一トナレリ、假令ハ地ノ南北緯度ノ全徑ヲ、二百二十
 九分トスレバ、東西經度ノ全徑ヲ、二百三十分トナス
 ガ如シ、地球南北緯ノ中心ヲ貫ク樞ヲ軸ト云ヒ、平扁
 ノ兩端ヲ南北極トシ、球面ノ正中ニ亘テ、南北ヲ分ツ
 經線ヲ、晝夜平等線一名赤道ト云、此線ノ直下ハ、晝夜ニ長
 短ノ差ナシ、航海人、此線ヲ指テ里扭リニイト云、地球其行圈
 ヲ旋轉シ、晝夜休ム一ナキヲ以テ、二十三度半ノ差ヲ
 ナス、故ニ太陽三月二十一日和蘭ノ月日ヲ云ヨリ、六
 月二十一日迄ハ、赤道上、北部ヘ向テ昇ル一、二十三度
此時間ヲニシテ、六月二十一日ヨリ、九月二十一日
春トス

マデニ、舊ノ赤道線ニ低復シ、此時間ヲ其十二月二十
 一日マデハ、赤道下南方ヘ向テ降ル一、二十三度半、此
間ヲ秋ニシテ、是ヨリ三月二十一日マデニ、再ヒ舊ノ
 赤道線ニ昇復スルヲ見ル、此時間ヲ去レバ、其實ハ太
 陽ノ運行スルニアラズ、地球ノ旋轉ニ由テ然ルナリ、
 是ヲ以テ、萬國一歲ニシテ、四時ノ變化アリ、但赤道直
 下ノ地ハ、終歲八時候ヲナス、其他ハ晝夜長短、寒暑各
 國同シカラズ、

經緯度

度數ハ、天球地球等ノ行圈ヲ區別シ標スルノ具ニシ

テ、測學家ノ要用タリ、地球周圍、經度緯度、共ニ三百六十度、然ルニ東西經度ハ、初度トスル所定ラズ、地球ハ圓形ナレバ、何レノ地ヲカ初トセン、故ニ多クハ、我が處ル所ノ國都ヲ以テ度ヲ起ス、或ハ龍動ロンドンノ都府英吉利、或ハ把里斯パリス、佛蘭西フランス、或ハ鐵島等ヲ以テ、初度トナスナリ、則ス、所ノ銅版萬國ス、南北緯度ノ如キハ、各國異同ナシ、之ヲ計ルハ、赤道ヨリ、兩極ヘ向テ算定スベシ、

大地五帶

兩極、赤道ヲ距ルノ度ニ因テ、地球ヲ五帶ニ區別ス、曰熱帶、曰兩正帶、曰兩寒帶是也、第一ハ、赤道ノ兩側ニ在

テ、南北ニ距ルヲ、各二十三度半ノ地ヲ熱帶ト云、一名線此地ノ居民、太陽ヲ天頂ニ纏フヲ每歲兩回、古ヘ云、熱帶ノ地ハ、炎熱劇甚、居住スベカラズト、然ルニ、穀果ノ豐饒ナルヲ言フベカラズ、其酷熱モ亦耐ヘ忍ブ可ラズト云ニ至ラズ、太陽天頂ニ至レバ、其地多クハ高山アツテ、常ニ雲霧ヲ起シ、日光ヲ遮リ、或ハ適宜ノ雨ヲ降シ、夜ニ至レバ涼風アリ、故ニ土壤肥腴、人畜繁茂、氣候融和ノ地少カラズ、
第二ハ、熱帶ノ兩側ニアツテ、兩至規線ヲ距ルヲ、南北各四十三度ノ地ヲ、兩正帶ト云、此地ハ、太陽ノ射照ヲ

受ル、稍斜ニシテ、氣候常ニ適宜ナリ、去レ、方置ノ
 形勢ニ由テ、各地ノ寒暄一ナラズ、北方正帶ノ地ハ、南
 偏ナルハ、温熱強ク、冬寒モ亦從テ輕シ、夏至規近傍ニ
 アツテハ、炎熱益劇甚ナレ、亦雲霧多ク、雨露ノ賜ア
 リ、是ニ反シテ北偏ハ、寒甚シケレ、亦堪ユベカラザ
 ルニ至ラズ、南方正帶ノ地モ、亦氣候融和ナリ、去レ、
 北方正帶ノ地ニ若カズ、
 第三ハ、兩正帶ノ分界北極圖ヨリ、兩極下ニ至ルマデ、
 各二十三度半ノ地、雨寒帶ト云、北帶地方ハ、夏至ニ
 シテ僅ニ太陽ヲ望ムノ、光線遠ク爰ニ及ハズ、新増

白蠟、沙謨厄、鄧北米里幹ノ北偏、卧兒狼德等、皆此帶部
 ニ屬ス、其地、沍寒極テ劇烈、絶テ果實ヲ生セズ、卧兒狼
 德ノ如キ、六十八度ノ邊ハ、火酒ダニモ凍沍スルニ至
 ル、其極下、九十度ノ地ハ、半歳ノ晝夜アリト云、

晝夜長短刻限表

萬國各地ノ位置ニ由テ、晝夜長短ノ差アリ、今此ニ其
 表ヲ舉テ、晝夜共ニ最長最短ノ極ヲ示ス、其巨細ヲ辨
 識セント欲セバ、其地ノ緯度ト、此比表ニ據テ推知ス
 ベシ、

南北緯無度無分ノ地赤道直

十二時 晝夜長短ノ差

南北緯八度三十四分/地	十二時半
同十六度四十四分/地	十三時
同二十四度十二分/地	十三時半
同三十度四十八分/地	十四時
同三十六度三十一分/地	十四時半
同四十一度二十四分/地	十五時
同四十五度三十二分/地	十五時半
同四十九度二分/地	十六時
同五十二度無分/地	十六時半
同五十四度三十一分/地	十七時

同五十六度三十八分/地	十七時半
同五十八度二十七分/地	十八時
同六十度無分/地	十八時半
同六十一度十九分/地	十九時
同六十二度二十六分/地	十九時半
同六十三度二十三分/地	廿時
同六十四度十一分/地	廿時半
同六十四度五十分/地	廿一時
同六十五度二十二分/地	廿一時半
同六十五度四十八分/地	廿二時

南北緯六十六度八分ノ地	廿二時半
同六十六度二十一分ノ地	廿三時
同六十六度二十九分ノ地	廿三時半
同六十六度三十二分ノ地	廿四時
同六十七度十八分ノ地	一月
同六十九度四十四分ノ地	二月
同七十二度二十二分ノ地	三月
同七十八度十一分ノ地	四月
同八十三度五十分ノ地	五月
同九十度無分ノ地	六月

兩極下

全世界火山表

亞細亞洲

十三個

屬島中

四十九個

通計六十二個

歐羅巴洲

一個

屬島中

十四個

通計十五個

亞弗利加洲

コレナシ

屬島中

十個

南北米里幹洲

八十一個

屬島中

十三個

通計九十四個

新和蘭

コレナシ

屬島中

六個

雪際表

高山トイヘテ、雪際以上ニ至ラザルハ宿雪ナシ、萬國ノ高低、天度ニ因テ異同アリ、南北極下ノ地ハ、平地トイヘテ雪際ナリ、氷雪常ニ堆積シテ、其形チ半圓毬ヲ覆フガ如シ、赤道直下ノ地ハ、非常ノ峻岳ニアラザレ

バ、雪際ニ至ラズ、故ニ其比表ヲ舉テ、各地ノ異同ヲ示ス、然ルニ、赤道以南ノ地ハ、以北ノ地ニ比較スレバ、頗ル寒冷ナルヲ以テ、此例ニアラス、

赤道直下ノ地	一萬五千尺
北緯十度ノ地	一萬四千尺
同二十度ノ地	一萬三千尺
同三十度ノ地	一萬一千尺
同四十度ノ地	九千尺
同五十度ノ地	六千尺
同六十度ノ地	三千尺

同七十度ノ地 一千尺
同八十度ノ地 一百尺
同九十度ノ地 極下ヲ云 平地

全世界高山表

歐羅巴洲

モンテコルノ峯 亞伯尼諾山脈 一萬零百十九尺
モントペルジニ峯 比勒搦何山脈 一萬零五百七十八尺
スクレツコルン山 敢通別郎 一萬二千五百六十尺
ピス。ピスウ山 瓦毫烏拉德兒蘭土 一萬二千六百尺

シイルラ子スダ峯 是斑呀 一萬二千七百六十二尺
ユングフラウホルン山 敢通別郎 一萬二千八百七十二尺
ヒンステラールホルン山 同 一萬三千二百十六尺
オルテレル山 直録爾 一萬四千四百六十六尺
モントブランコ山 牙爾白山脈 一萬四千七百尺
モントロセ峯 同 一萬五千五百九十七尺

同洲諸島高山

ロングヒールド山 依爾蘭土 三千百五十尺
スノウドン山 英吉利 三千四百五十六尺
スノヒールツヨク山 依爾蘭土 四千八百尺

ウヘルンシデ山

英吉利

五千十尺

ロトンド山

哥爾西華

八千六百八十七尺

エトナ山

齊西里亞

一萬千四百尺

亞細亞洲

ペトカ峯

支那

二萬一千尺

井ハ五ル峯

意貌山脈

二萬五千七百四十九尺

ダウラギリ峯

同

二萬六千八百六十二尺

同洲諸島高山

アダムスピーキ山

靈鷲山

齊狼

六千六百八十尺

富士山

日本

一萬千四百尺

オピル山

蘇門答刺

一萬二千百六十二尺

亞弗利加洲

クイフルベルグ

杓山

喜望峯

三千五百九十八尺

亞太臘山

巴爾巴里亞

一萬二千尺

月山

亞昆沁域

一萬二千三百七十二尺

同洲諸島高山

ジアナピーキ山

聖意勒納

二千七百尺

ピイキ山

的涅里華

一萬千四百零六尺

北米里幹洲

コツレヘロテ山

默時科

一萬二千五百八十八尺

ピクオクサバ山 黙時科 一萬六千二百零二尺

ホ、カテペトル山 同 一萬六千六百二十六尺

同洲屬島

青山 ブラウベルグ 牙賣加 六千八百二十八尺

南米里幹洲

シイルラメリダ山 カラカス 加辣加斯 一萬四千七百九十尺

ピシンカ峯 アンデス 暗得山脈 一萬五千零三百六尺

コトパキシ峯 同火山 一萬七千七百十二尺

アンチサナ峯 同火山 一萬七千九百五十八尺

キムボラコ峯 同 二萬零百四十二尺

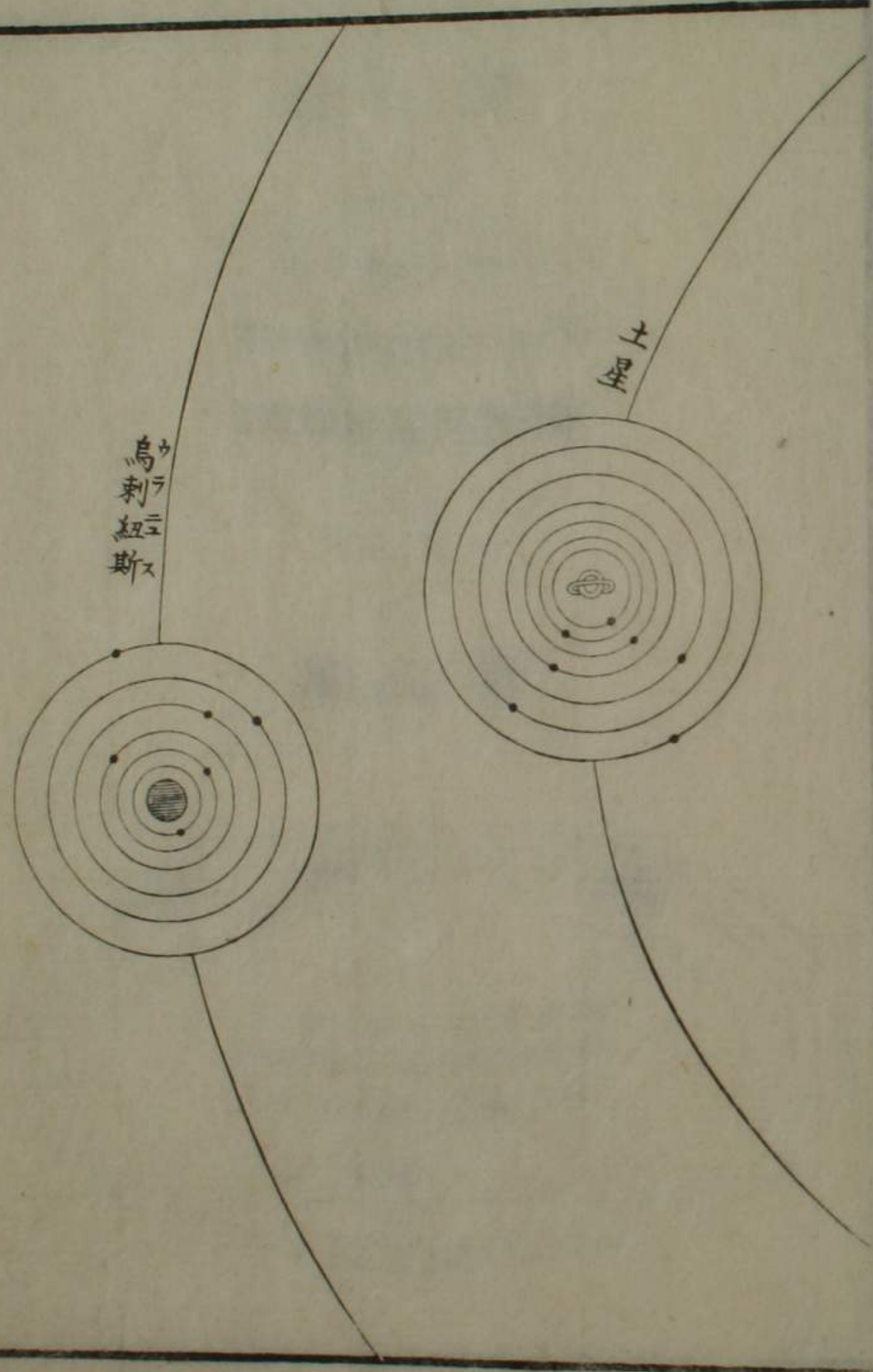
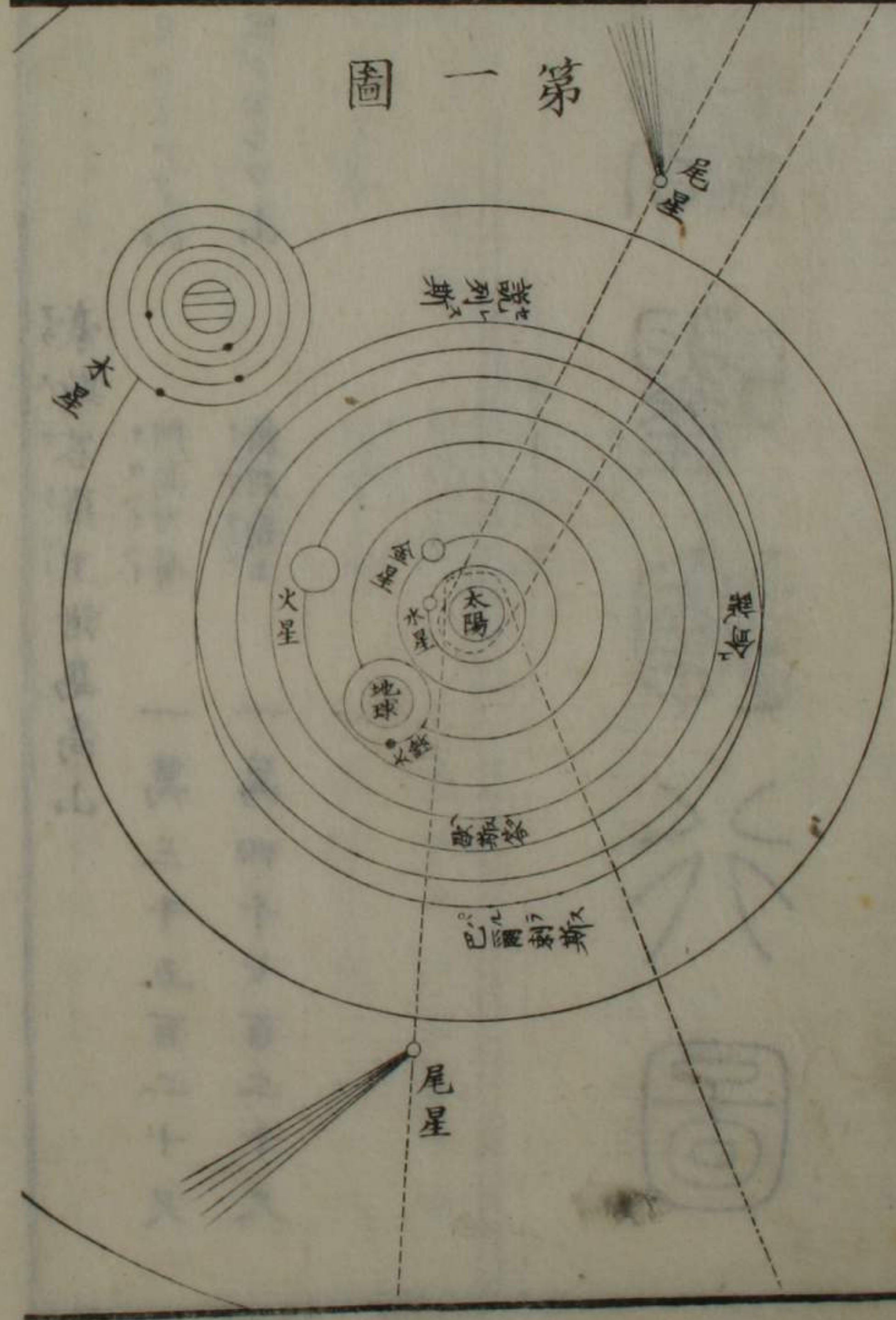
豪斯答羅里諸島高山

モウナロア山 オウヘイ 阿烏勿屏 一萬三千五百二十尺

エグモンツ山 イハゲランド 新則蘭土 一萬四千七百二十尺

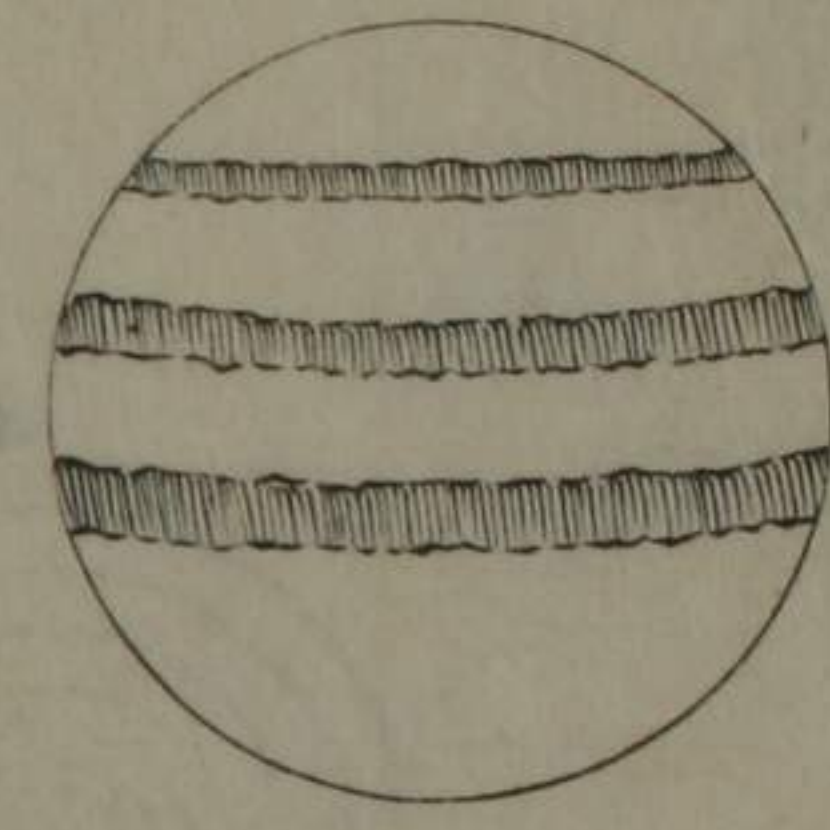
諸 曜 連 峯 圖

第一圖

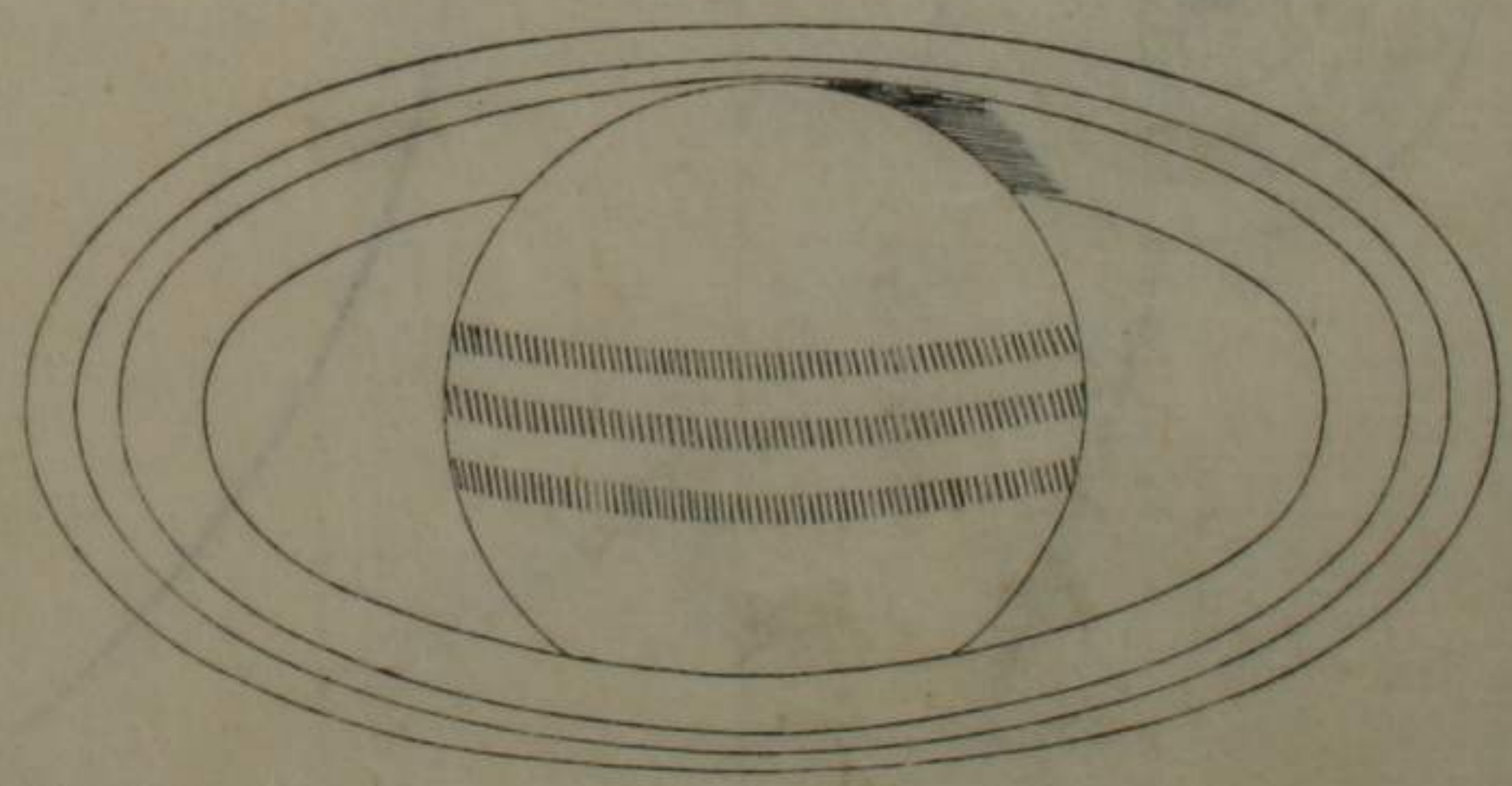


泰西三才正蒙 卷一 白女樓藏

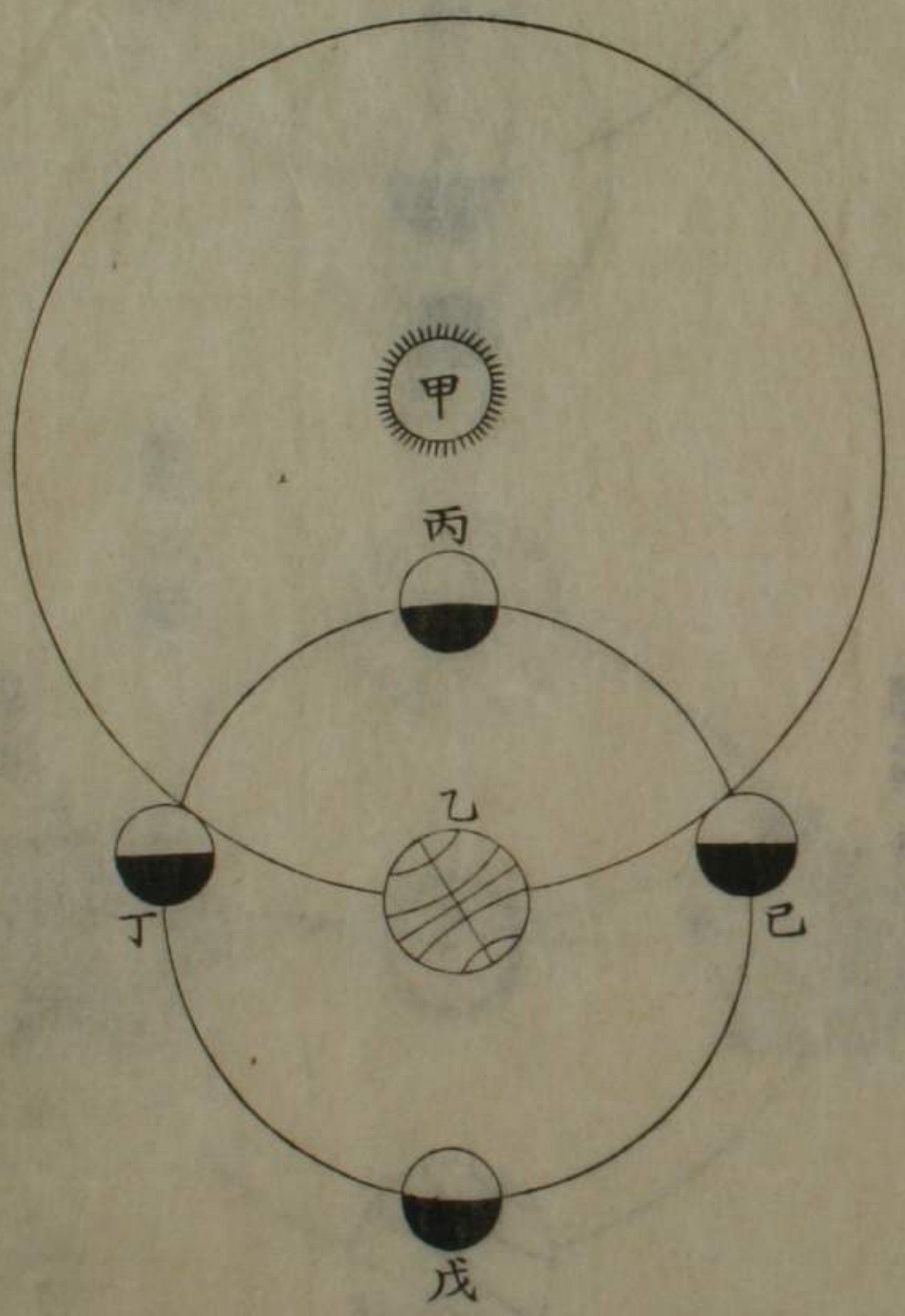
圖二第



圖三第



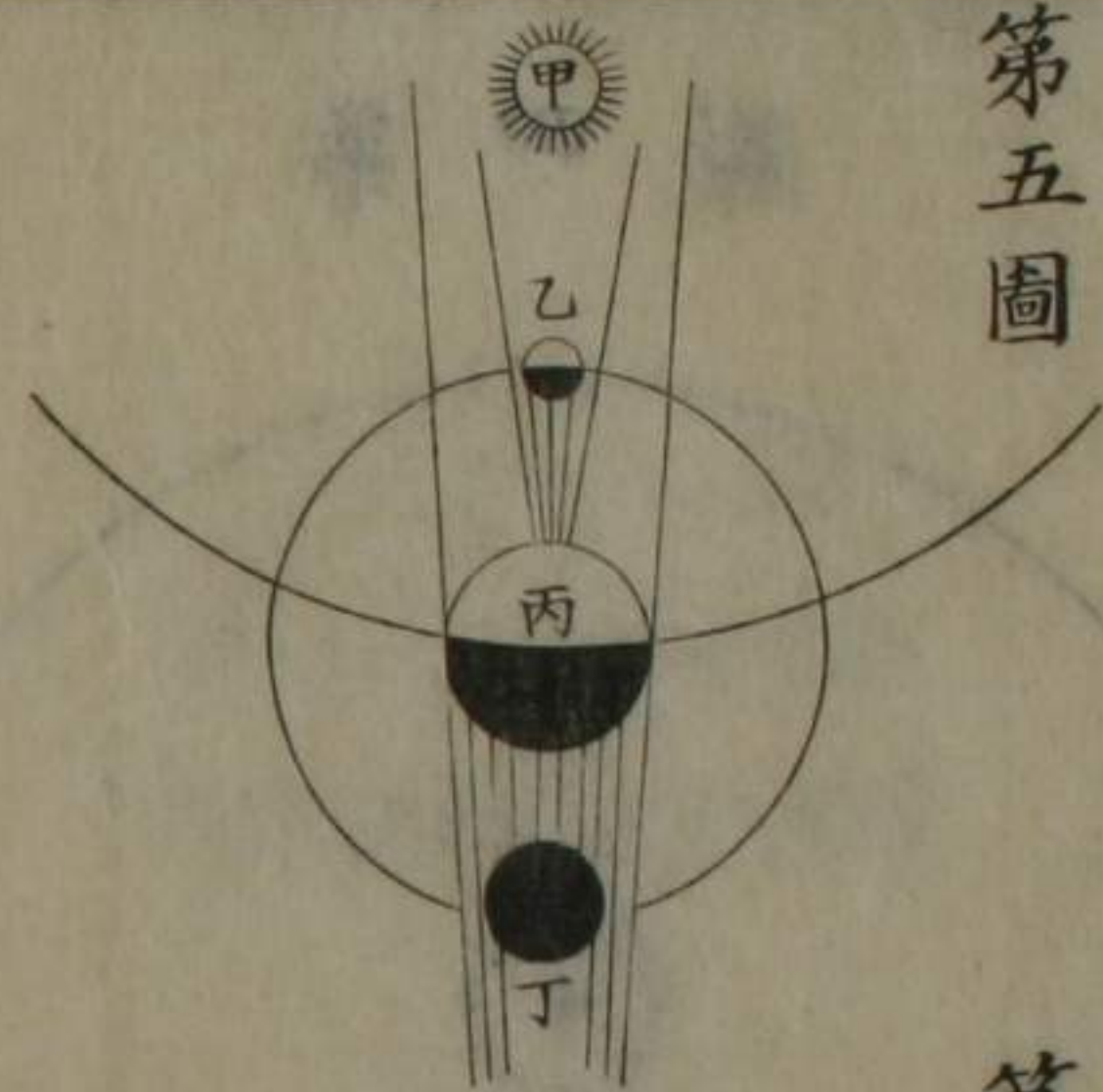
圖四第



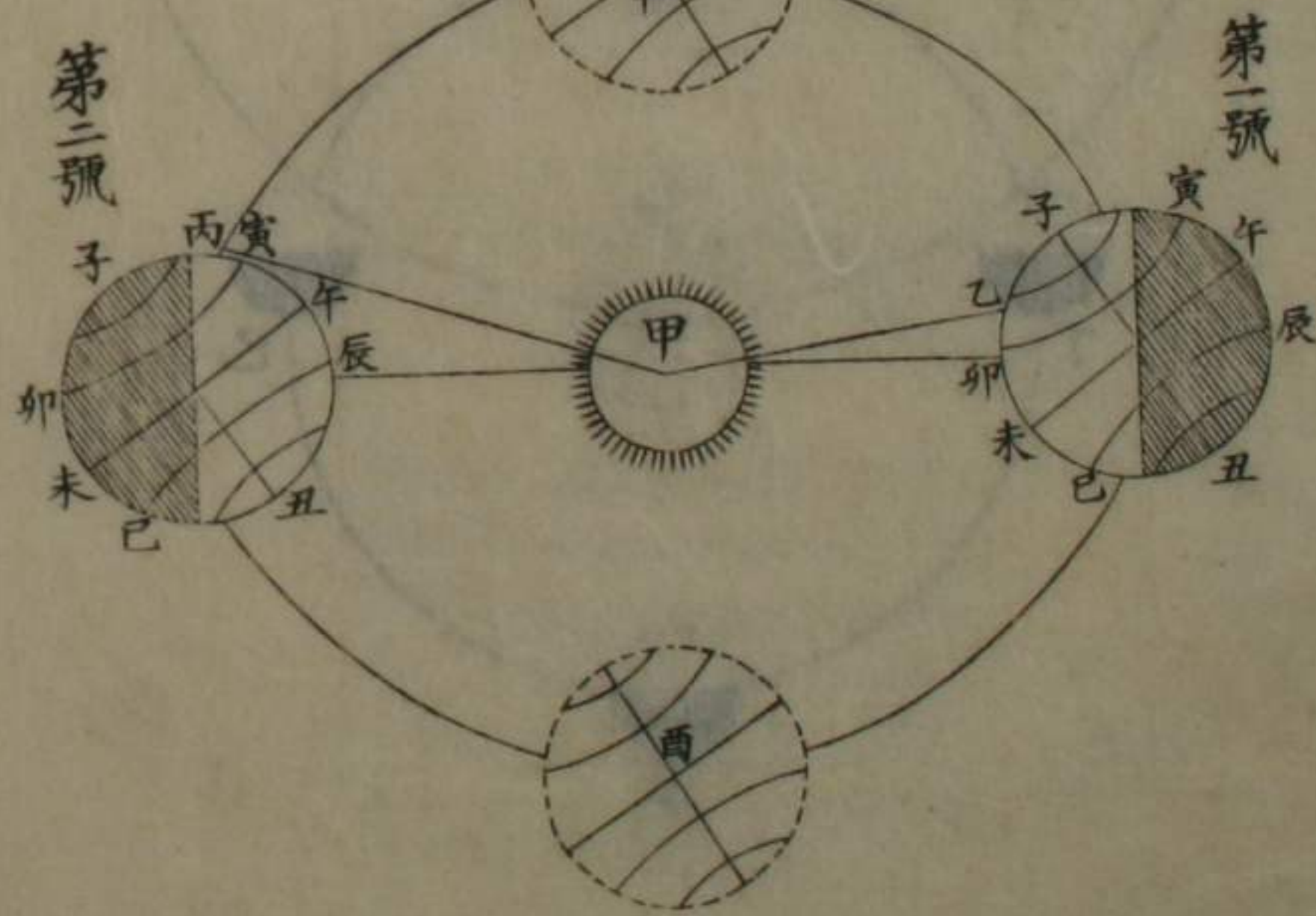
泰西三才正蒙 卷一 圖 三 皋口婁藏

泰西三才正蒙 卷一 三 皋口婁藏

第五圖



第六圖



泰西三才正蒙卷一終

竹口貞高

飯田
石海

